

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

城東中学校区	校番 5	福山市立城東中学校
最終更新日		2020年(令和2年)2月7日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>中学校区で統一した育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)のもと、9年間を見据え児童・生徒の思考や単元の意義を協議し、子どもの学ぶ姿から授業を構成する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>他者と協働し、自分の考えをまとめ、説明する力が育ちつつある。</p> <p>個人差はあるが、自己有用感、自己肯定が低い傾向にある。</p>	<p>育成する力(21世紀“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 <課題発見・解決力> ○根拠をもって相手を説得する力 <論理的思考力・表現力> <p>倫理観</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自他を認め合い思いやる態度 <協働性> ○自らの行動を律し、高まろうとする態度 <自己指導力> <p>目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子</p> <p>校区スタンダードで目指す児童・生徒の姿(達成基準)を系統的に4つのステージで捉え、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。</p> <p>自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育むスキルと倫理観を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。</p>
---	---	---	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>主体的な学びを通し、自立し、自己と郷土の豊かな将来を創造する生徒を育てる。</p>	<p>育成する力(21世紀“スキル&倫理観”)</p>	<p>課題発見・解決力</p>	<p>論理的思考力・表現力</p>	<p>協働性</p>	<p>自己指導力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自立・貢献</p>					
<p>現状</p> <p><生徒></p> <p>ふれあいルームの設置を通じて、一人一人の違いを認め、多様な他者と協働して物事に取組もうとする生徒が増えてきている。また、体育大会・文化祭等の学校行事を通じて、異年齢による学び合いが育ってきている。</p> <p><授業></p> <p>子ども主体の授業づくりを意識して行うことで、生徒が意欲的に授業に取り組む姿が以前より良くみられるようになった。</p> <p>生徒だけで深められないとき、教師がどう関わっていくのかが今後の課題である。</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>1年生</p> <p>課題を見つけ、見通しを持って仲間と共に解決しようとしている。</p>	<p>自分の意見と相手の意見を比べながら聞き、根拠を明らかにして自分の考えを、説明することができる。</p>	<p>相手意識を持ち、積極的に人間関係築こうとしている。</p>	<p>様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやりとげようとしている。</p> <p>自らの行動や学びが適切であるか振り返りながら、より良い生き方を創り上げようとしている。</p>
	<p>研究</p>	<p>教科等</p> <p>道徳</p>	<p>自ら主体的に学ぶ授業の創造</p> <p>～ やってみたい! 考えたい! 説明したい! ～</p>		
	<p>めざす授業の姿</p>	<p>○自分でじっくり考え、他者の意見も踏まえ、自己の考えを広げる授業</p> <p>○相手・目的・内容に応じて分かりやすく説明ができる</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城東中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	自ら考え学ぶ授業づくりの推進	★	見直	生徒の思考と単元の構成を関連付けた授業づくり	・「教える」ことと「学ぶ」こと、「指示すること」「自分で決める」こと等のバランスを考えた授業づくり	・授業で考えることがおもしろい生徒80%以上 ・全国学力・標準学力調査、全国平均以上	□生徒アンケート76% □全国学力・学習状況調査 国語 75(+2.2) 数学 63(+3.2) 英語 54(-2.0)	3	3	・異学年・異教科のグループで授業づくりについて研究する。 ・放課後、図書室とパソコンルームを開放し、学習する環境を整える。 ・基礎計算力向上プリントを作成し、定着確認テストを実施する。	□生徒アンケート76% □全国学力・学習状況調査 国語 75(+2.2) 数学 63(+3.2) 英語54(-2.0)	3	3	3	・様々な校内研修を取り入れ、教員の授業力、生徒対応力などを高める。 ・個別最適化学習を推進する。
3	城東校区三訓「時を守り、場を清め、礼を正す」の定着	★	見直	探究学習を通しての協働性・自己指導力の向上	・授業等における約束事の定着 ・多様な考えを認め合う集団づくり	・自分の考えは認められている生徒80%以上 ・長期欠席者数3.5%以内	□生徒アンケート84% □長欠出現率2.98% (昨年10月2.52%)	3	3	・生徒自身が生活の課題を考え、解決に向けた取り組みを行う。 ・多様な視点や考えを持つことができる対話的な授業等を行う。	□生徒アンケート83% □長欠出現率5.26% (昨年1月5.0%)	3	2	3	・多様な視点や考え方を生かす対話的な活動をより活性化させる。 ・ふれあい教室、C.R.規程の見直しなどによる居場所づくりを進める。
3	主体的に取り組む体力づくりの推進		見直	体力・運動能力の向上	・新体力テストの不十分な項目を、体育の補強運動・部活動の中に取り入れる	・新体力テスト県平均75%以上	□県平均以上79.2% 男子95.8% 女子62.5%	3	4	・体育の補強で、課題のある項目に関する動きを取り入れる。 ・体力向上に向けた運動を部活動に入れていく。	□県平均以上 男子100% 女子70.8% □「部活動に積極的に参加している」生徒アンケート68%	3	4	4	・授業や部活動での補強運動を充実させる。 ・12月の駅伝大会に向けて、全体での取り組みを行う。
4	保護者・地域に信頼される学校づくりの推進		見直	自己有用感・自己肯定感の向上	・学校環境整備、ボランティア活動の推進 ・ICTの活用による業務改善	・ボランティア活動を年1回以上行っている生徒90%以上 ・平日、週1回部活動休養日、定時退校日の確実な実施95%以上	□生徒アンケート64% □部活動休養日・定時退校日は、年間の行事予定に組み込んでいるため、完全に実施している。	3	3	・委員会活動と連携して校内ボランティアを仕組む。	□生徒アンケート70% □部活動休養日・定時退校日は毎週設定し確実に実施できた。	3	3	3	・校内ボランティアの設定とともに表彰システムを作る。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。